
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 344 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.01.17 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1190 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 科学・技術者、農業者が納得できる新年でありたい 安富六郎

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.128』発行されました

<イベントのご案内>

公開討論会「原発事故・放射能汚染と農業・農村の復興の道」

<編集後記> 30年後、自分はどんな人間になっているのだろう...

—宮本 輝著『30 光年の星たち』(毎日新聞社刊)

<巻頭言> 科学・技術者、農業者が納得できる新年でありたい

昨年は国内外で重苦しい波乱の年であったが、嬉しいこともあった。それは日本中が沸いた iPS 細胞研究のノーベル賞受賞ニュースである。今世紀最高とも言えそうな業績である。このような画期的な業績は一朝一夕に出来るものではない。長い間の基礎研究の積み重ねと努力の成果である。ところで、原子力の「安全神話」は、「蒙昧(もうまい)」な政治的権力が科学者の基礎科学的知見を無視して作り上げたものであり、福島原発事故はまさに、これを進めてきた政治の責任であることが、ますますはっきりした。

新内閣が発足した。さっそく「原発再稼働、新設認可もありき」である。フクシマから何を学んだのであろうか。今までの責任も取ろうともしない、あまりにも無神経な話である。さらに憲法を改正して政府は昔の軍国「日本を、取り戻す」つもりなのであろうか。その上、TPP 参加交渉に世論をかえり見ずの独走だ。前政権も国民の意に反した消費税の値上げを強行した。これと同じ手口で再び国民の意志を無視しようとしている。そして震災復興という最も緊急を要する課題は後回しになっている。被災地、福島の人々の安心した生活環境作りこそ、緊急を要する真の復興の始まりであろう。

地方都市に行けば、繁華街でもシャッター通りが目立つ。大通りには人影もまばらで若者が少ない。農村に行けばさらにである。経済の立て直しで強く望まれることは、地域の活性化であろう。その地域を支えているのが農業・農村である。外国主導で食料自給も出来ない状態で、農村が豊かになれるはずがない。農業を失った人々は何をすれば良いのだろうか。森林・農地・沿海にまで及ぶ自然環境保全という、大きな責任が農村には課せられている。さらに日本文化の多くがここに宿っている。健全な農村の復活は地域活性の原動力ではあるまいか。農業・農村を如何にして立て直すかが、いま日本再生に問われている。

このような際に、原発、TPP、環境について多くの科学的情報を公開して、ぜひ、国民的討論に付せるべきであろう。そして科学・技術者、農業者が納得できる科学的知見を大切にする新年となることを切に願いたい。

安富六郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.128』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.128』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）SRIの可能性について／山路永司

[第141回定例（現地）研究会] 震災復興の方向性と課題を探る

◎非湛水除塩実験結果と自生するヒエに関する考察

／後藤秀樹・渡邊博・山本将礼・加藤健二・中村衆栄

◎3.11大震災で被災した農業の早期復旧に向けて

—宮城県試験研究機関連携プロジェクトについて

／森川あけね

◎夢いちご生産組合と生産再開の状況／深沢政一

[第142回現地研究会]

近著『「農」を論ず』をもとに原論的問題提起／梶井 功

〈新連載〉“生きもの語り”の世界から (1) 生きもの語りの誕生／宇根 豊

【随感】高橋昇（1892～1946）と「水稻畦立栽培法」について／塩谷哲夫

【書評】西尾敏彦編『昭和農業技術史への証言—第9集』／安富六郎

<イベントのご案内>

公開討論会「原発事故・放射能汚染と農業・農村の復興の道」

【主催】 NPO 法人 日本有機農業技術会議 [共催] 日本有機農業学会、コモンズ

今回の原発事故を経験して、有機農業と原発は原理的に相容れないことを痛切に実感しました。同時に、有機農業は安全性論だけに依存しすぎていたことへの痛切な反省も迫られています。今回の公開討論会ではそうした認識を踏まえて、以下の諸点について語り合いたいと思います。

- (1)放射能の危険性をどのように認識するのか。とくに、内部被曝と低線量被曝の危険性認識をめぐって。
- (2)「危険だ、避難せよ」という判断と呼びかけをめぐって。農業と風土的暮らしは土地を捨てては成り立たない ことをどう考えるか。安全性の社会的保証と被災地復興の追求は、簡単には両立しないのではないか。
- (3)放射能汚染の下で自然はこれからどのように推移していくのか。人は逃げられるが自然は逃げられない。
- (4)科学者の役割とあり方。危険の中に生きる人びとへの助言も必要。煽ることからは、冷静な認識は生まれない。

【討論者】

▽小出裕章.....京都大学原子炉実験所助教、著書『この国は原発事故から何を学んだのか』（幻冬舎）ほか

▽明峯哲夫.....有機農業技術会議代表理事、共著『有機農業の技術と考え方』（コモンズ）ほか

▽中島紀一.....茨城大学名誉教授、著書『有機農業政策と農の再生』（コモンズ）ほか

▽菅野正寿.....福島県有機農業ネットワーク代表、共著『放射能に克つ農の営み』（コモンズ）ほか

【コーディネータ】

▽大江正章.....コモンズ代表、著書『地域の力』（岩波書店）ほか

日時：2013年1月20日（日） 13:30-17:00

場所：立教大学 池袋キャンパス マキムホール（15号館） M202 教室

主催：NPO 法人 日本有機農業技術会議

共催：日本有機農業学会、コモンズ

資料代：1,000円（学生無料）

NPO 法人 有機農業技術会議・連絡先

Yuki-gijutsu@coast.ocn.ne.jp

090-4520-7730(中島) FAX 0299-44-0456 (中島)

<編集後記> 30年後、自分はどんな人間になっているのだろう...

—宮本 輝著『30光年の星たち』（毎日新聞社刊）

ここしばらく宮本輝の小説に手がのびる機会がふえている。本の編集者を主人公にした『にぎやかな天地』を読んでからだ。主人公が取り組んでいるのは日本の伝統的な発酵食品を後世に残す豪華限定本。地域で営々と営まれてきた発酵食品のつくり手を尋ねながら微生物の精妙な営みに心をひかれていく。

「発酵食品を題材にした『にぎやかな天地』（2005年）あたりから、歳月のすごさを書いている。今、日本人全体が、明日の千円より今日の百円というような、すぐ結果が出ることをしたいという目線になっている。.....歳月をかけなければ何事も成就しない」（著者へのインタビュー記事より。東京新聞、2012年11月17日）

正月休みも終わろうという頃、手に取ったのは『30光年の星たち』（2011年）だ。職を失い、恋人に捨てられた主人公・坪木仁志は金を借りた老人・佐伯平蔵の提案で「とりたて」の旅をともにする。佐伯は単なる金貸しではなく、暮らしにこまる女性たちに資金を融通し、起業を応援しつづけてきたのだ。起業から経営が軌道にのるのは、借金返済のながい道のりでもある。佐伯は坪木に自身の事業を引き継ごうとし、そして坪木にも起業をうながす。

あとがきで筆者は、若者が成長して行くには一定の支援が必要である。だがいまの社会はそのような時間も資金も与えようとし...新聞連載（本書は最初

毎日新聞に連載された) は正直しんどいと思いきわろうと思ったが、自分のなかで「三十年後の姿を見せろ」という言葉が大きく鳴り響き、連載をひきうけることにした...といったような言葉を記している。

年末の選挙以降、たとえば株式市場は盛況である。円安もすすみ輸出関連企業は歓迎しているという。がそれはどれほどの年月の射程をもっているのだろうか。「30年後の自分」あるいは「30年後の社会」という見方と重ね合わせるとどうか。地に足をつけて、などというといかにも安っぽく聞こえるかもしれないが、『30光年の星たち』はそれでもなお、一步一步歩みつづけることの貴重さを語っているような気がしてならない。

2013年01月17日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん(文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん(大地を守る会)

ブログ: 大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん(長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん(拓殖大学政経学部)

ブログ: 代替案 書評: 『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん(イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 345 号の締め切りは 01 月 28 日、発行は 01 月 31 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 344 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.01.17（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****